

国際化学肥料ニュース（2020年12月）

肥料業界の2020年12月動態

- * 11月23日公表、12月1日開札されたインドMMTC社の尿素国際入札は、最終127.3万トンの輸入契約を決めた。そのうち9割が中東産で、中国からの尿素は10万トンと第3国から転売の5万トンしかない。
- * ブラジルからの報道によれば、2020年11月までの11か月、尿素輸入量が過去最大の636万トンに達した。2019年の尿素輸入量559万トンであったが、2020年は700万トンになる見込みである。尿素輸入量急増の原因は国内生産量の減少にある。2020年1月ペトロブラスは唯一稼働しているParaná州Araucária尿素生産ライン（生産能力64万トン/年）を停止した。これによりペトロブラスの3つ尿素生産ラインがすべて閉鎖された。また、Fafen-BA、Bahia、Fafen-SE、Sergipeの尿素生産ラインも停止された。国内旺盛な窒素肥料需要を満たすため、輸入に依存するしかない。
- * 中国りん酸化肥料工業協会のデータによれば、2020年はコロナウイルス影響により、国内のリン安需要量が大幅に増加し、輸出量も増え、メーカーの生産意欲を促した。2020年のMAP生産量が12.2%増の824万トン、輸出量27.6%増の268万トン、DAP生産量が0.7%増の1040.46万トン、輸出量14.1%減の556万トンになる見込みである。また、2021年のMAP生産量が800万トン、DAP生産量1100万トンと予測される。
- * インドMMTC社の国際尿素入札を終え、130万トン近く尿素を契約したことに加え、ブラジルも11月までに記録的な量の尿素を輸入したため、尿素の国際市場が沈静化した。12月第2週の尿素価格が約10ドル/トン下落し、2021年1月の市況も平常に戻る見込みである。ただし、中国が例外で、政府の冬季大気環境汚染に対する規制の強化と天然ガス不足により、尿素の生産量が約2割も減少し、輸出価格が上昇して、FOB290ドル/トンに達した。
- * 12月第3週のりん安市況が好調である。東半球ではインド、パキスタンとバングラデシュはりん安の国内在庫量が少なく、輸入に力を入れた。11月末現在のインドDAP在庫量が300万トン未満、昨年同期より130万トンを少ない。パキスタンがさらにひど

く、DAP 在庫量が 10 万トンしかない。この 3 か国の DAP 需要により、ヨルダンとエジプトの来年 1~3 月に輸出できる DAP はすでに予約されたようである。中国 DAP の FOB 価格も 370~375 ドル/トンとなり、去年同期より 70 ドル/トン以上も上昇した。

西半球では、ブラジルの粒状 MAP 価格が急上昇し、モロッコの OCP 社から輸入される MAP の価格が先週より 10 ドルも上がって、CFR400~405 ドル/トンに上昇した。また、OCP 社は EU 向けの粒状 MAP 価格も FOB400 ドル/トンに値上げした。

* 各国の塩化加里輸入輸出データ

国名	期間	輸入量(万トン)	輸出量(万トン)	増減率
ブラジル	2020 年 1~9 月	824		+3.5%
アメリカ	2020 年 9 月	107		+11%
インド	2020 年 9 月	40.1		
中国	2020 年 1~11 月	818		
カナダ	2020 年 1~10 月		1818	+10%
ベラルーシ	2020 年 1~10 月		967	+8%

* ベラルーシからの報道によれば、ベラルーシ BPC 社の Krasnoslobodsky 加里鉱山の 2020 年加里鉱石採掘量が 5500 万トンに達する見込みで、1200 万トン塩化加里の生産量に相当する。また、2020 年塩化加里輸出量が前年度より 70 万トン増の 1050 万トンに達する。

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

その他

* ノルウェーの Yara 社はノルウェーで再生エネルギーを使って、2026 年までに 50 万トンのグリーンアンモニアを生産し、水素経済を支援する計画を打ち出した。アンモニアの化学的性質により、簡単に水素に変換することができるうえ、極端な温度まで冷却する必要がなく、液体水素よりもエネルギー密度が高く、輸送と保管がより効率的に行うことができる。したがって、アンモニアが最も有望な水素運搬体であることはその理由である。

* デンマークの Vestas 社と Haldor Topsoe 社、SkovgaardInves 社の 3 社はパートナーシップを組み、2022 年までに太陽光と風力発電で 10MW の商業規模でグリーンアン

モニアプラントを開発する計画を打ち出した。このプラントはデンマークの **Western Jutland** に設置し、既存の 12MW の Vestas 風力タービンと 50MW の新設ソーラーパネルから電解槽に電力を供給し、水素を生成させて、5000 トン／年以上のアンモニアプラントに供し、化学肥料を生産する内容である。

- * 中国の化成肥料メーカー金正大の持ち株会社臨イ金正大投資有限公司が巨額負債のため、裁判所から民事再生の決定を受け、企業再生手続きに入った。12月11日臨沐裁判所は臨イ金正大投資有限公司が債務返済不能と負債が資産を超えたという理由で提出した破産再生申請を正式に許可した。

金正大は 1998 年設立、2010 年深セン株式市場に上場、中国国内に 12 ヶ所の化成肥料生産拠点を有し、ドイツ、オランダ、スペインとイスラエルにも進出している。従業員約 1 万人、年間化成肥料生産能力 710 万トン、2019 年肥料生産量 394.5 万トン、中国最大の化成肥料メーカーである。